



ふくろう通信

第51号
2018年10月8日
自然博物館 ねいの里



バードマンションは大人気！？

自然博物館ねいの里管理員 見浦 沙耶子

ねいの里では園内に約20個の小鳥用の巣箱を設置しています。毎年春から夏にかけてシジュウカラやヤマガラ、スズメたちが次々に巣箱を利用し子育てをしており、「バードマンション」というネーミングで来館者の皆様にも親しまれています。

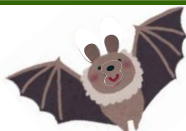
本来は小鳥たちのために設置しているバードマンションですが、思いがけない生き物たちも利用することがあります。いったいどんなお客様が入居していたのか、少しご紹介します！



「無事成長しているかな？」と、そっと巣箱をのぞくと、ヒナを食べてお腹いっぱいになったアオダイショウがとぐろを巻いている衝撃の光景を目にすることも…。
ヘビはヒナ鳥を食べるために巣箱に入ってきます。彼らも生きるためとはいえ、この時ばかりはガッカリした気持ちになります。



スズメが巣立ったあとの巣箱をアブラコウモリが寝床として使っていたこともありました。ねいの里では珍しい光景です。



中の様子

拡大写真



アシナガバチやスズメバチの巣になってしまうこともよくあります。バードマンションはハチたちにも人気の物件のようですよ。



ポイント

ハチに巣箱が利用されている場合は、営巣活動が盛んな夏に巣箱をさわると危険なので、ハチの活動が終わる12月頃に確認するのが良いでしょう。

その頃に巣箱を空にしてきれいに掃除しておく、冬の夜に寒さをしのぐ場所として野鳥たちが利用することがあります。

キノコに親しもう！ ～キノコは森からの贈り物～

《コケ採りを楽しもう》

ヒガンバナが見ごろになりキンモクセイの香りが漂いだすと、体がウズウズして気もそぞろになる人たちがいます。コケ採りをする人達です。私もその一人…。(富山ではキノコのことを「コケ」といい、キノコ採りのことを「コケ採り」と言います。)

この頃からマツタケやアマタケなど秋のキノコが出始めるからです。多くの人が「キノコは分からないから」と敬遠しますが、難しいことはありません。2～3種類のキノコを覚えるだけで十分コケ採りを楽しむことができます。

右の写真を見てください。毒キノコや食用にならないキノコもきれいだと思いませんか？観察するだけでも面白いですよ。



ほとんどがイグチとテングタケの仲間です。うまそうですが、残念ながら食用にならない物ばかりです。

《キノコの正体》

キノコの本体は枯れ木や土の中に広がった菌糸の塊で、カビやコウボと一緒に菌界という集団を生物の中で形作っています。(菌界は植物界とも動物界とも違い、どちらかという動物界の方に近い生物と言われています。) 私たちがキノコと言っているものは、植物でいうと花や実と相当し、胞子を作る器官(子実体という)です。この子実体が肉眼で見える大きさのものを作る糸状菌の集団を便宜上キノコと呼び、それ以外をカビやコウボとしているのです。



《キノコは森の掃除屋さん》

この菌類がいないと森や林はどうなるのでしょうか？毎年、大量の落ち葉や枯れ枝が発生し倒木もありますが、綺麗に無くなります。これは、ナメコやヒラタケ、サルノコシカケ等を含む木材腐朽菌と呼ばれるキノコたちが分解してくれているのです。分解されずに溜まりつづけると大変なことになりますね。

石炭は古代の植物が地中に埋もれ、熱と圧力で炭化したものです。それは、そのころにはまだ木材腐朽菌が出現していなかったため、倒木などが分解されず大量に残ったからだと考えられています。

《カシノナガキクイムシからの贈り物》

今から15～16年前、真夏だというのに山が紅葉のように赤茶色になったのを覚えていますか？カシノナガキクイムシの被害でミズナラが枯れてしまい、対策で大騒ぎになりました。少し遅れて里山のコナラも被害にあいました。

この立ち枯れた木に、ナメコやヒラタケ、ムキタケ等がそれこそ山のように出たのです。ナメコを一杯詰めた重いザックを背負い、両手にもナメコの袋をぶら下げて山を下りてきたこともありました。

その木々も2～3年前には表皮が剥げ落ち、これらのきのこが出なくなりました。コケ採りや山歩きをする人たちにとって、この贈り物は夢のような出来事だったのです。



《今年のキノコの出来は？》

今年はキノコが豊作とのこと。ねいの里(の周辺)にもありましたよ！30数本のマツタケが直径数メートルの菌輪を描いて出ていました。

長年コケ採りをしている私も、こんなにたくさんのマツタケは、見たのも採ったのも初めてのことで。

また、マイタケが1株出ていました。有峰などではミズナラの大木に出るといいますが、最近では低地のコナラにも出るようになったようです。このマイタケは直径30cm程のそんなに太くないコナラの根元に出ていました。



これはマイタケです

(10月7日の鑑定では本マツタケではなくニセマツタケだろうとのことでした。)

(8月25日)

「水辺の生き物観察～外来生物について考える～」



(捕まえた生き物を観察しているところ)

池の水を抜いて特定外来生物のウシガエルを駆除する予定でしたが、晴天続きで水不足。抜いてしまうとその後溜められないということで、池に生息している生き物観察会に変更になりました。

ワナで捕まえた生き物を観察した後は、外来生物のウシガエルとウチダザリガニの試食タイム。恐るおそる食べ始めた人も最後は「おいしかったあ！お替わり。」



(9月9日)

「有峰の自然を探る～アサギマダラ調べ隊～」

有峰でアサギマダラのマーキング調査をする予定でしたが、あいにくの悪天候。予定を変更して立山博物館と魚津水族館を見学することになりました。

立山博物館では、有峰や立山の自然、立山マンダラを通じて立山開山や立山信仰について学んだあとマンダラ遊苑へ。バスを降りるとき雨が上がっていたので、雨具を持たずに苑内に入ったところ雨が降ってきて、濡れながら立山マンダラをイメージした苑内を回りました。

魚津水族館では、職員の解説で富山県の川や富山湾の特徴と、そこに生息する生物について学びましたよ。

(10月7日)

「キノコ狩りとキノコ鍋を楽しむ」

心配された台風25号でしたが、進路が北寄りになり風の影響はなかったものの、あいにくの雨模様。それでも200人を超える人達が参加されました。

注意事項などを説明の後、キノコ狩りのスタートです。30分経った頃から、鑑定をしてくださる講師のところへ採ったきのこが持ち込まれました。

鑑定後は、キノコ鍋を楽しみました。



仲良し二人組



今回のキノコ狩りで見つけた主なキノコ (事前採取も含む)

ヌメリコウジタケ
タマゴタケ
ニセマツタケ
ホオベニシロアシグチ
ウラベニホテイシメジ
シャカシメジ

アマタケ (シバタケ)
アカヤマドリ
オオムラサキアンズタケ
ナラタケ
コクリノカサモドキ
トキイロラップタケ

ミキイロウスタケ
クサウラベニタケ
ツキヨタケ
チチタケ属の仲間
テングタケ属の仲間
フウセンタケ属の仲間

キノコ鍋に入れたキノコ

天然：ヌメリコウジタケ
タマゴタケ
ホオベニシロアシグチ
ウラベニホテイシメジ
シャカシメジ

購入：ナメコ
マイタケ
ブナシメジ



ウラベニホテイシメジ



オオムラサキアンズタケ



シャカシメジ



アカヤマドリ

ねいの里 これからの行事案内

● 11月4日(日)「里山ゲームと宝探し」

9:30 ~ 12:00 集合場所:ねいの里

親子で里山ゲームと宝探しオリエンテーリングを行います。

(対象:小学生以上の親子、定員:20組)



● 11月18日(日)「蔓植物観察とクリスマスリース用輪っか作り」

9:30 ~ 12:00 集合場所:ねいの里

蔓植物を観察しながら採取し、リース用の輪っかを作ります。

● 12月9日(日)「クリスマスリース作り」

9:30 ~ 12:00 集合場所:ねいの里

持ち寄った材料でクリスマスリースを作ります。

(定員:30名、材料費:リース1個につき200円)



● 1月4日(金) ~ 6日(日)「春の七草頒布会と正月遊び」

9:00 ~ 17:00 (4日は13:00から) 場所:ねいの里

ねいの里や周辺で集めた春の七草を頒布します。

また、昔の懐かしい正月遊びも体験できます。

(200セット、一人2セットまで、200円/1セット)



***** 〈行事への参加希望の方は、ねいの里までお申し込み下さい。〉 *****
受付開始は、行事实施の約1ヵ月前からになります。

■ 企画展

9月5日 ~ 11月26日 ねいの里キノコ写真展



11月28日 ~ 3月31日 ロードキル写真展



12月15日 ~ 1月21日 春の七草実物展



○ 「ねいの里自然塾の会」会員の駐車場利用について

会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、ナチュラリスト駐車場を利用来ます。



発行 富山県自然博物館ねいの里 館長 富永 宣宏

〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1

Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp

ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>